

2012年夏学期レポート

サマークラス

5月14日から6月1日まで三週間、サマークラスを履修した。一般教養過程総合学習クラスのひとつで、ビジネスとアートについて学んだ。

アート部門では国立美術館やローカルアーティストによる展覧会へ行って現代アート、ハイブローアート、ローブローアート、グラフィティ、コンピューターゲームのアート、アフリカ系アメリカ人のアートなど、様々なアートについて学び、DCが政治だけの街ではなく、アートの街でもあることを知った。

ビジネス部門では、Google、Facebook、mixi、Twitterなどの、利用無料のコンテンツ提供企業がどのように企業を運営させているのかを調べた。ほとんどの利用無料の企業は、広告から大部分の収入を得ているようだ。広告掲載料が私たちの利用料、無料コンテンツ提供企業の運営費となっているのである。広告だけで、会社が運営できちゃうなんて、ちょっぴり驚きであった。

また、広告の消費主義、非消費主義について学んだ。消費主義とは商品やサービスの利点を効果的に宣伝して、消費者に購入を促すものである。が、中には不当な広告もある。例えば今人気のある、「あなたが一足買うたびに、靴が必要な発展途上国の子供たちに一足贈られます。」がコンセプトの某ブランドシューズ。新しくカッコいい靴が手に入るとともに、発展途上国をサポートできる、が売りの一石二鳥の靴である。が、よく考えてみると、靴を与えるという行為は、地域全体の発展には繋がらない。靴はどこにでも手に入る。無料の靴が町に送られてきたら、町の靴屋さんは、靴が売れず営業困難に陥るかもしれない。子供たちの親達は、タダで靴が手に入るからと、仕事を怠るかもしれない。これでは町全体の経済を悪化させてしまう。「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ。」ということわざがあるように、物を与えるだけではなく、持続的な発展に導くサポートをすべきである。

このクラスでは、アートとビジネスについて様々なことを学ぶことができたが、アートとビジネスを交互に学んだだけで、ひとつのトピックをアートとビジネス両方の視点から見ることはなかったため、総合学習という感じがしなかったのが少し残念であった。

インド訪問

夏休みは、インドに行って来た。聾学校と聾大学でボランティアをさせてもらったり、聾学校や障がい者作業所、障がい児孤児院を視察したりした。

また、ろう者によるエンターテインメントショーがムンバイで行われたので、鑑賞してきた。小さなイベントかと思ったら、500人ほどの入場があり、驚いた。インド手話読

み取り力が貧しいために、よくわからない部分もあったが、パントマイムに始まり、短編映画、手話ソング、物語など、笑いあり泣きありの楽しいショーであった。イベントが終わっても劇場や出入り口付近で、閉場になっても駐車場で延々と楽しそうにおしゃべりしているろう者をみて、ろう文化は世界共通だと思わずにはいられなかった。多くのろう者は日常生活の中で手話で話せる人に会う機会が少ない。そのため、このように手話で話す人が集まるイベントでは、おしゃべりに延々と花が咲く。私もその輪に混じって、インド人との交流を楽しんだ。